

## 調 査 ・ 研 修 報 告 書 (会派個人用)

会派名： きずな

報告者： 林 高正 ㊟

実施場所：第 2 回 中山間地域の諸課題解決 セミナー（三次市）	実施日：平成 28 年 12 月 3 日～4 日
<p><b>■目的・課題・問題事項（調査・研修に先立っての思いや本市の現状 など）</b></p> <p>中山間地域の諸課題解決に特化したセミナーであり、今回は、人口減少社会に対する取り組みについて、徳島大学総合科学部 准教授 田口太郎氏が「縮小時代における地域の方向性」と題して基調講演を行われました。そして、事例発表は、「道の駅 たかの」の関係者 4 名が、人口減少を続けている高野町での道の駅のこれまで、これからについてお話しいただきました。</p>	
<p><b>■参考とすべき事項</b></p> <p>田口先生の講演で何度も出てくる言葉は、「人」と「地域」です。講演を聞いて感じたことは、「地域」は、最終的には、「人」の勝負になるのではということだと思います。『『良い移住者』を受け入れる地域』というお話もありましたが、移住者に求めるばかりでなく、地域も変わる必要があるそうです。先生の家族は、徳島県の過疎地（10 戸で高齢化率 50%）で暮らしておられるそうですが、住民の諦め感が少しずつ薄らいできているのでは感じるとおっしゃっていました。否定からは何も生まれませんからね。</p> <p>道の駅たかのの事例発表でこれだなと思ったのは、「高野地域づくり未来塾（メンバー約 25 名）」の存在です。道の駅オープンまでの 2 年間（2011～2012 年）で、何と、132 回からの会議を夜な夜な行い、正に、高野の向かうべき道普請を成し遂げられました。つまり、役所の下請けでないという自覚を持った、徹底した議論がそれを可能としたと私は感じました。</p>	
<p><b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b></p> <p>実は、田口先生は道の駅たかのの取組に非常に興味を示されました。それは、住民組織で「高野地域づくり未来塾」を立ち上げたことと、行政と対等に渡り合ったこと。そして、絶えず変化していることにより、陳腐化せずに快進撃を続けていることなどです。</p> <p>これから、道の駅たかのはどう変わっていくのか興味あるところではありますが、まるで、島根県の海士町を見ている感じを受けました。これからの勝負は、良い移住者の獲得だと思います。三次市に住んで高野に通う人も結構いらっしゃるみたいですが、高野で生活が完結することにより、より高野が輝くのではないのでしょうか。</p> <p>庄原市内にこんな良いお手本があるのですから、市としてもあらゆる機会を捉えて、事例紹介すべきだと思います。ただし、4 名がセットでないだとダメですけどね。</p>	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。

平成28年12月8日

## 調査・研修報告書（会派個人用）

会派名：きずな

報告者：徳永泰臣



実施場所：三次市君田町森の泉	実施日：平成28年12月3～4日
<b>■目的・課題・問題事項</b> ○ 中山間地域の諸課題解決セミナー  今回は徳島大学総合科学部准教授 田口太郎氏による「縮小時代における地域の方向性」と題した基調講演があり、そして事例発表として、高野町の「道の駅 たかの」の設立からの関係者に来ていただき、各種取り組みを発表していただきました。	
<b>■参考とすべき事項</b>  ○田口先生の専門は、都市・地域計画・まちづくりで、住民が主体的に取り組むまちづくりのプロセスデザインを主たる研究テーマとして、2007年に発生した新潟中越沖からの復興まちづくり支援、地域おこし協力隊が復興支援員、集落支援員などの地域への人的支援に関する実践及び研究を進めておられる。自身も2010年より徳島県内の農村部に移住、現在10世帯高齢化率50%の集落で生活中。 先生によると、「地方創生で様々な取り組みが行われているが、非常に重要なのは集落目線、地域目線で地に足付いた取り組みの主体性を醸成していくこと」で、そのために、行政、政治で何ができるかについて、お話頂きました。 ○平成20年夏に行政主導で、高野地域づくり未来塾が設立され、その後「高野道の駅構想」が浮上し、専門家のノウハウを活用し市民の声を最大限活かすため、道の駅「管理運営協議会」が設立された。コンセプトは「とことん庄原産」であり、「人づくり」「ものづくり」「情報発信」の重要性を痛感しました。	
<b>■提言・その他（本市の施策等にどのように活用すべきか など）</b>  ○翌日、「道の駅たかの」を視察させていただきました。職員の対応の良さ、品揃えの豊富さや活気など、本当にこれだけの努力があつての成功なのだと感じました。 今後は、この流れをいかに市内各地に導くかといった事が重要であろうと思います。	

※ 調査・研修終了後、一週間以内に会派事務局へ提出してください。